

# ASEAN地域における研究・教育・国際支援活動

【プロジェクトの名称】福井謙一記念研究センター 分子理論計算化学におけるASEAN各国との研究交流事業

【海外活動地域・協力機関】タイ王国:チュラロンコン大学、カセツアート大学、マヒドール大学; ベトナム社会主義共和国:ベトナム国立大学、ハノイ理科大学、ダナン大学、ホーチミン市立計算科学工学研究所; マレーシア:プトラマレーシア大学、マレーシア工科大学、マラヤ大学; フィリピン共和国:ミンダナオ州立大学; シンガポール共和国:シンガポール国立大学、南洋理工大學 ほか

【プロジェクト担当部局・担当者】福井謙一記念研究センター センター長 田中一義

## ■ プロジェクトの目的・概要

東南アジア各国の大学の学生(主に大学院生)および若手教員を我が国に招待し、福井謙一記念研究センターをはじめとする研究室の研究内容を紹介するとともに、共同研究を実施する。同時にセンターからは東南アジア各国の主要な大学を訪問し、研究交流を推進する。

■ 海外協力機関との提携内容 従来は特には提携していない。

## ■ これまでの活動成果

1. 日本学術振興会若手研究者交流支援事業－東アジア首脳会議参加国からの招聘－をH21-22年度に実施し、ASEAN6カ国から24名の若手研究者の受け入れ、センター側からは延べ11名の研究者の派遣を行った。
2. H20からH26年度にかけて、10名の若手研究者を3ヶ月～2年間にわたって受け入れ、共同研究を実施している。H21年度から4年間、フィリピン共和国:ミンダナオ州立大学の研究者を福井フェローとして採用して共同研究を行った。H25年度はマレーシア政府派遣のプトラマレーシア大学上級講師を1年間受け入れ、共同研究をおこなった。またH25 -26年度は、タイ王国政府派遣のチュラロンコン大学博士課程学生を1年間受け入れ、共同研究を実施する。
3. この事業の一環として、タイのチュラロンコン大学の教員を工学研究科分子工学専攻にも紹介し、半年間、共同研究を行った。この教員はその後准教授に昇進している。
4. ASEAN各国(例:フィリピン、マレーシア、タイ、シンガポール)の大学からの副学長、学部長、教授級の訪問、討論が頻繁に行われている。
5. 毎年のように、センターのシニアリサーチフェローやリサーチリーダーがASEAN各国を訪問し、学会講演、研究室講演および討論、集中講義、一般講演などを活発に行っている。
6. 逆に、当センターの日本人フェローが、南洋理工大学の Assitant Professorに就任した例もある。



## ■ 備考1: 京都大学ASEAN拠点への期待

1. 東南アジアでは研究への強い意欲を持つ若手研究者が多い。彼らを京都大学へ招聘して共同研究を行うことや、本学の教員を派遣して集中講義や共同研究を行うことができると、実の上がる活動となるだろう。
2. 海外協力機関、我が国のNPOあるいは類似の機関との共同活動が可能なら、その紹介なども行ってほしい。

## ■ 備考2: 京都大学ASEAN拠点への貢献方針

1. 理論化学・計算化学を希望する研究者がいれば、受け入れたい。
2. 現地を訪問して京都大学の紹介事業や現地での集中講義などにも、貢献したい。